

水圏生態学研究室 教員 飯田 碧

研究テーマ：

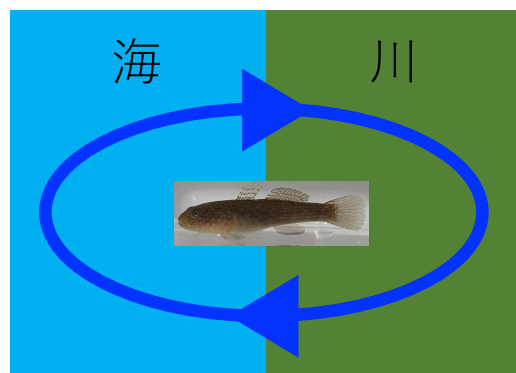
- ✓ 海と川とを行き来する通し回遊性魚類の生態とその多様性に関する研究
- ✓ 沿岸に出現する仔稚魚の分布とその変動に関する研究
- ✓ 水生生物の幼生の分散・滞留機構に関する研究

研究概要（こんな研究ができます）：

佐渡島にある水圏生態学研究室では、海と川とを一生の間に行き来する通し回遊魚の生態や、魚類をはじめとする水生生物幼生の海での分布、分散と滞留について研究しています。

✓ 通し回遊性魚類の生態とその多様性

海と川とを一生の間に行き来する通し回遊魚は、サケやウナギのように大規模に回遊するものから、アユやハゼのように、狭い範囲を回遊するものまで様々です。海と淡水は、水に棲む生物にとっては、塩分・水温・流れなど大きく環境がことなるため、その水域間の移動にはストレスがかかります。通し回遊現象は多くの種で見られますが、詳細はよく分かっていません。通し回遊を行う種の基礎的な生活史や生態、それらと環境との関わりに関心を持って研究を行っています。



成魚が淡水に生息するハゼ亜目魚類やカジカ科魚類などを主な対象として、河川や海での生態調査や環境測定、微量元素分析などの手法により研究を行っています。

通し回遊魚の中には同種でも、回遊を行っている個体群と回遊を行わない個体群が出現することがあります。また、近縁種でも回遊の規模に違いがあることがあります。それらは生息環境に関係がありそうですが、詳細は分かっていません。通し回遊現象と環境との関わりについても研究を行っています。



主な調査地である佐渡島の河川

✓ 沿岸に出現する仔稚魚とその変動や幼生の分散・滞留機構

多くの通し回遊魚は、生まれてすぐの生活史初期を海で過ごします。また多くの海洋生物の幼生は、陸と異なり浮遊して過ごします。その期間には分散したり、滞留して流されないようにしているはずですが、詳しいことは分かっていません。これらの機構にも関心を持って研究を進めています。

得られる知識や関わる資格：

- ✓ （得られる知識や技術）生理機能、生態、発生、分類、進化、環境アセスメント、フィールドワーク、分子生物学的研究手法など
- ✓ （関わる資格）潜水士、学芸員、ビオトープ管理士、環境管理士など

卒業生の就職先：

- ✓ 国家公務員（水産庁）、新潟県職員（水産職）（2015年度より3名）、栃木県職員（総合職）、高校理科教員（兵庫県、山形県、宮城県）、笠倉出版社、マリンフーズ、足立区生物園、大学院進学（新潟大学自然科学研究科、筑波大学生命環境科学研究科、大阪市立大学理学研究科）など

高校生に一言：

- ✓ 普段気にとめないような生物も、生きるために驚くようなしくみを発達させていたり、うまく環境に適応したりしています。身近な自然に関心を向けてみてください。きっと興味深い現象を目にすることができるはずです。